

(9) 四国



四国地域では、景気は回復の動きに足踏みがみられる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はやや弱含みとなっている。
- ・ 雇用情勢は改善の動きに足踏みがみられる。

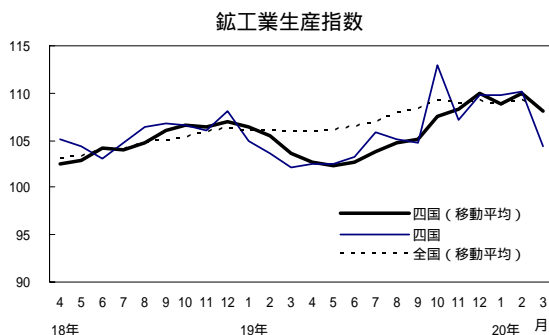
前回調査からの主要変更点

	前回（平成20年2月）	今回（平成20年5月）	
景況判断	緩やかに回復	回復の動きに足踏みがみられる	
鉱工業生産	増加傾向	おおむね横ばい	
住宅建設	大幅に減少	減少	
雇用情勢	改善傾向	改善の動きに足踏みがみられる	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

パルプ・紙は、チラシ・広告などの塗工紙が低調だったことから、減少している。食料品・たばこは、一部品目で値上げの影響から受注が減少したことや清涼飲料水工場で定期修理があったことから、減少している。電気機械は、パソコンや携帯電話などに使う蓄電池に動きがあったものの、産業用の遮断機などが低調であったことから、減少している。化学は、一部で補修・改良工事による生産ラインの停止や工場の定期修理があったものの、医薬品は引き続き好調であったため、わずかながら増加している。一般機械は、化学機械・化学繊維機械などが、海外向けに好調であったことから、増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷		在庫	
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期		
パルプ・紙	13.3	3.6	1.2	0.1	2.1		
食料品・たばこ	13.3	4.4	4.2	3.6	1.3		
電気機械	12.8	20.8	1.7	3.0	3.9		
化学	12.7	1.0	0.7	0.3	0.2		
一般機械	11.3	1.7	5.1	5.3	1.2		
鉱工業	100.0	4.6	1.7	1.6	0.1		

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1~3月期は速報値。

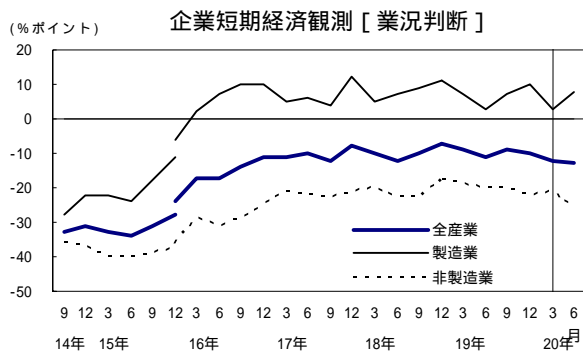
(備考) 1. 季節調整値。四国の最新月は速報値。

2. 全国及び四国の太線は後方3か月移動平均。

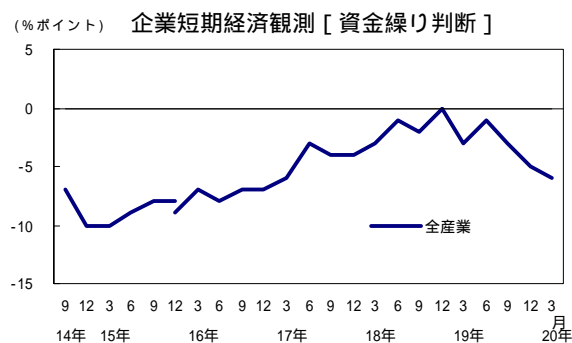
3. 四国は12年基準、全国は17年基準。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。

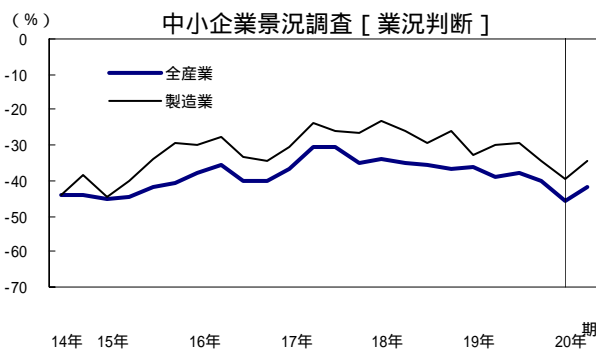
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年6月は予測。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

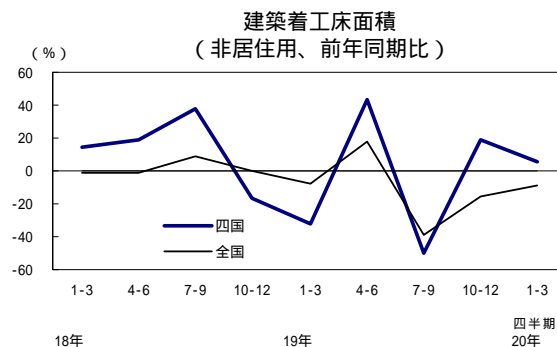
「コストアップの対応として新商品を売り出しているが、まだ消費者の認識が十分ではないので、なかなか売れていない(パルプ・紙・紙加工品製造業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 19年度の設備投資は前年度を大幅に上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	19年度実績見込み	20年度見込
全産業	16.1 [11.7]	25.5
製造業	23.6 [24.5]	32.4
非製造業	7.1 [1.4]	16.0

(備考)[]は前回(12月)調査結果。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含みとなっている。

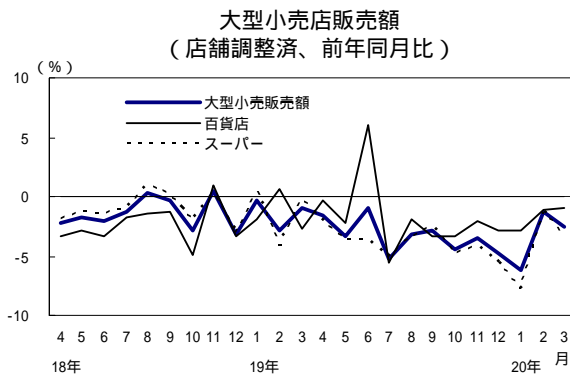
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、展示会効果により家具などの動きが良かったものの、雨や雪が多く来店客数が減少したことから、前年を下回った。2月は、うるう年で営業日数が1日多く、一部催事効果により高額商品である宝石、時計などに動きがあったものの、気候要因により春物衣料が低調だったことから、前年を下回った。3月は、一部の店舗で改装効果があり、惣菜などの食料品が好調だったものの、円高・株安等の影響によりブランド品・靴などが振るわず、9か月連続で前年を下回った。なお、中国四国百貨店協会によると、四国地区の4月の売上高は前年同月比で3.8%減となっている。

スーパーは、2、3月に中国製冷凍食品問題を受け、手作り用食材が好調に推移したものの、衣料品に買い控えがみられたり、期を通じて前年好調だったゲーム機・ソフトの反動があったことから、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

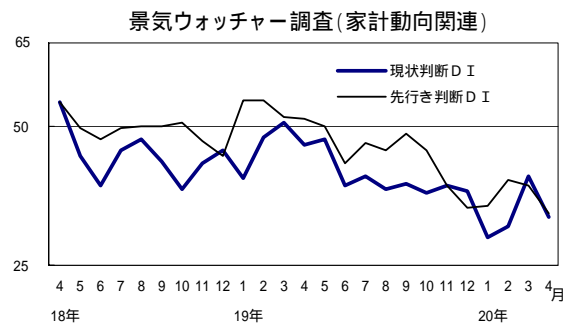
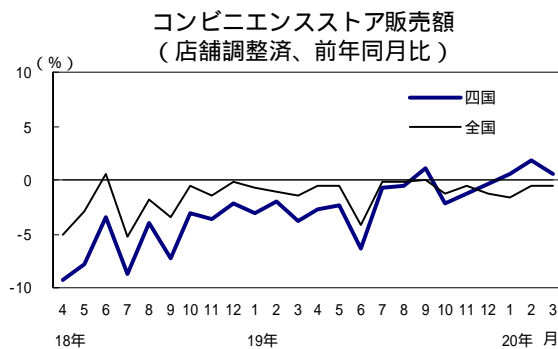
「暫定税率の問題でガソリン代が下がり、自動車の購買につながるかと期待したが、5月に値上がりするため、全く自動車購買につながらない。客の様子から、相変わらず買い控えの傾向が強く、販売は伸びていない(乗用車販売店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	19年4-6月	7-9月	10-12月	20年1-3月
大型小売店	2.0	3.8	4.2	3.5
百貨店	1.1	3.9	2.7	1.8
スーパー	3.1	3.7	4.9	4.3
コンビニ	3.8	0.1	1.2	0.9
景気ウォッチャー	44.6	39.7	38.6	34.3

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

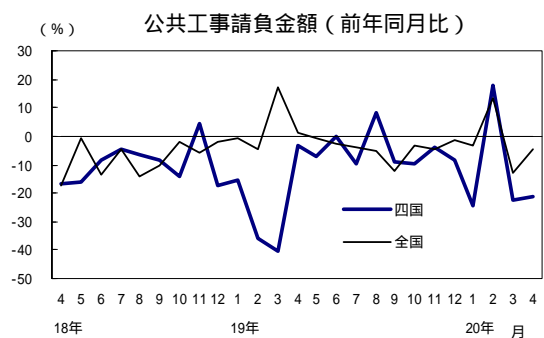
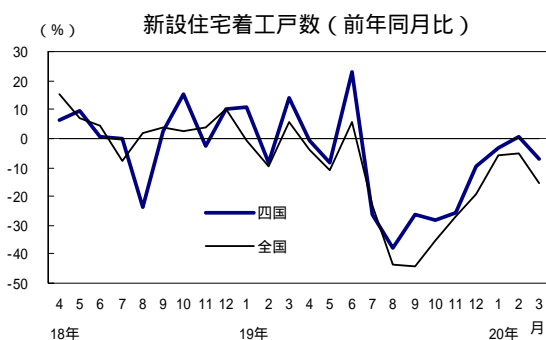
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

持家が前年を大幅に下回ったことから、全体でも減少している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度を下回っている。

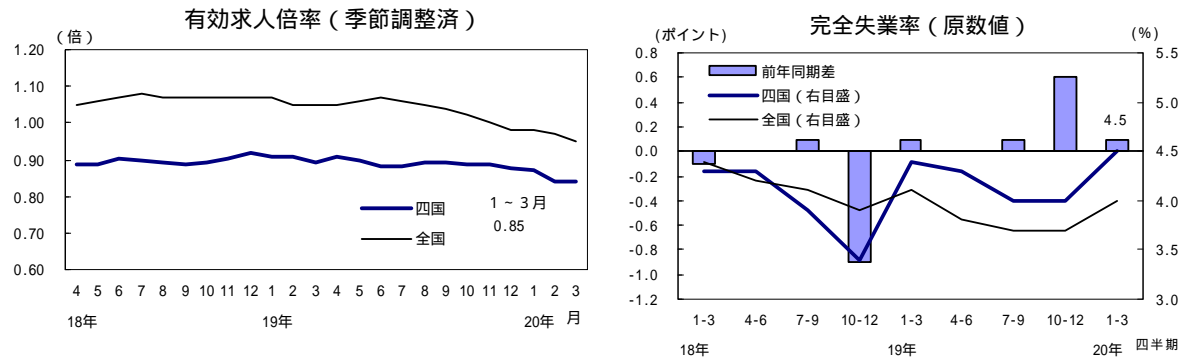


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善の動きに足踏みがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査 (4月)[雇用関連(現状)]

「製造業においては原油等の値上がりで原材料費が高騰しており、利益が上がらず、従業員の雇用形態に日給・月給制を採用するところが増えている(民間職業紹介機関)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

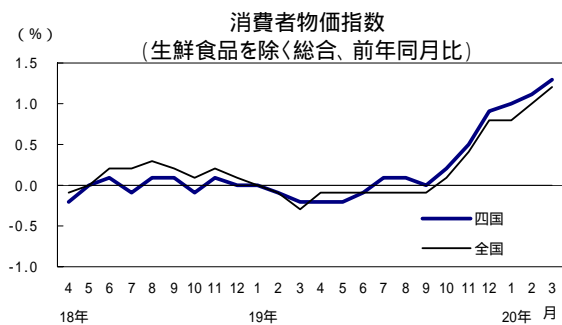
(2) 企業倒産は、負債総額が減少しているものの、件数は増加している。

4月に負債総額、件数がそれぞれ大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	19年4-6月	7-9月	10-12月	20年1-3月	20年4月
倒産件数	106	103	92	83	34
(前年比)	19.1	7.2	1.1	5.1	36.0
負債総額	453	306	197	252	123
(前年比)	76.7	30.8	51.3	78.8	283.9



景気ウォッチャー調査 (4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・新端末販売開始や新サービス開始など、業界全体において活気づく要素は出揃っているものの、総合的に勘案すると、3か月前と大きな変化はない(通信会社)

<先行き>

・クールビズも定着してきており、気温が高くなれば少しは活気が出てくるかもしれないが、必要最小限の購買が顕著な現状を考えると、あまり期待できない(百貨店)

